

会議録

令和8年4月24日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和7年度第9回定例会
開催日時	令和8年2月18日(水) 午後6時30分から午後9時30分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：小須田厚子(会長)、松本静(副会長)、澤井稔、小林資郷、小池教之、渡邊耕造、下坂小百合、亀倉康悦、花房敦子、ギログリー江美、鈴木明美、小林大介、坂内夏子、荒井容子 事務局：近藤館長、市川事業係長(柳沢)、根岸分館長(芝久保)、菅野分館長(谷戸)、一之瀬分館長(保谷駅前)、小林事業係主任
欠席者	山本分館長(田無)
議題	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和7年度第7回定例会会議録(案)について(資料1)</p> <p>(2) 令和7年度第8回定例会会議録(案)について</p> <p>2 主催事業について</p> <p>(1) 令和7年度公民館主催事業報告について(資料2)</p> <p>(2) 令和7・8年度公民館主催事業計画について(資料3)</p> <p>(3) 令和8年度西東京市公民館事業計画(案)について(資料4)</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 行政報告</p> <p>(2) 公民館だより編集室報告</p> <p>(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告</p> <p>4 事務連絡及び情報交換</p> <p>(1) 令和7年度第2回利用者懇談会日程(資料5)</p> <p>(2) その他 令和8年度西東京市公民館事業評価について</p> <p>(3) 令和7年度第10回定例会の開催について</p>
資料	<p>【配付資料】</p> <p>資料1 令和7年度第7回定例会会議録(案)</p> <p>資料2 令和7年度公民館主催事業報告</p> <p>資料3 令和7・8年度公民館主催事業計画</p> <p>資料4 令和8年度西東京市公民館事業評価(案)</p> <p>資料5 令和7年度第2回利用者懇談会日程表</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(3名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和7年度第7回定例会会議録(案)について(資料1)</p> <p>●令和7年度第7回定例会会議録(案)について承認。</p> <p>(2) 令和7年度第8回定例会会議録(案)について</p> <p>●令和7年度第8回定例会会議録(案)については、修正点・意見などあれば、1週間以内に事務局に連絡をすること。</p>	

2 主催事業について

(1) 令和7年度公民館主催事業報告について（資料2）

○事業係長

ひばりロビーサロン（ひばりが丘）について、普段2～3人くらいのロビーに、50人から回を重ねるごとに評判を呼び最後は100人近い方がロビーでサークルの演奏などを楽しんだ。

○分館長（保谷駅前）

【共催事業】地域連携講座「寄席っておもしろい！落語とマジックWで共演～きいて楽しいみて楽しい やって楽しい～」（保谷駅前）は、日本の伝統芸能と手品というエンターテイメントに触れる機会になっており、毎年楽しみにしているリピーターも多い人気の講座。今年度も保谷落語愛好会と西東京マジッククラブの共催事業として行った。また副題に、やって楽しいとあるように、参加者からは実際にワークショップで手品をしたのが楽しかったという多くの声が寄せられた。

○A委員

【共催事業】コンサート「年のはじめの新春コンサート」（谷戸）について、チラシのポスティング等の努力で、集客に成功し、あえて地域交流にシフトする狙いは何か。

○分館長（谷戸）

今回のコンサート（谷戸）は、利用者とともに作る講座としており、公民館で活動する団体とともに地域の方が楽しめる講座を実施したいということで、今年度と似た内容で来年度も計画している。

○A委員

出演するクラシック演奏団体が地域のグループなので地域とともに作ると表現したと思うが、芸術的なコンサート等になるのか、講座学習になるのか分かりにくい。デジタル社会の中で、身近な場所で無料で、親も子どもたちと一緒に、生の芸術に触れて楽しむことができるというところが、非常に大事なことだと思う。

○B委員

クラシックコンサートはレベルが高いものだが、自分たちの地域でプロに近い皆さんの生演奏を聴けることは時代が求めていると、感じた。

○C委員

保育付き講座の事業報告がいくつかあるが、子どもの成長を考えて保育されていて、ただ預けるだけじゃない、という部分がすごく評価されていると思った。これは素晴らしいことで、もっと公民館保育室の存在が多くの人たちに届いたらいいと思う。育児が自宅でワンオペになるとものすごく閉塞感があるので、こうした活動はすごく評価できる。谷戸公民館の子育て中の人のための講座（保育付き）絵本がつなぐあなたとわたし～手作り絵本があなたの子育てを楽しく豊かなものにかえていく～報告書の中で、ちひろ美術館訪問日が小学校の運動会と重なって参加できない受講者がいて残念だったとあるが、ちひろ美術館訪問時の保育はどのような形だったのか教えてほしい。

○分館長（谷戸）

当日の保育は無くして、親子一緒にちひろ美術館を訪問した。以前、小須田会長から、保育中は、何かあった時にすぐ保護者が対応できるよう、保護者が公民館外に出ることはなかったと伺っていたため、親子離れての保育は無しとした。ちひろ美術館の特別展の平和特集の日程に合わせて実施したため、当日の小学校運動会の日程までは確認していなかった。

○C委員

安田菜津紀、甲野陽紀、小川こころなど、各講師で有名な方を招いていて、一流の方の話を直に聞けるのはすごく贅沢なことだと思う。どのように講師依頼をされているのか。

○分館長（谷戸）

小川講師については、過去にも講師をしていただいた経緯があり、お願いした。

○分館長（芝久保）

安田菜津紀講師については遠方のためオンラインで講師とつないで受講していただいた。

○事業係長

甲野講師については田無公民館分館長欠席のため次回に回答する。

○C委員

実行委員会について伺いたい。例えばヤギフェス vol. 14 柳沢みんなの文化祭シン・ヤギフェス（柳沢）の実行委員会はどのように組まれているのか教えていただきたい。

○事業係長

出演要件として、団体から1人以上、実行委員会に参加していただくこととしている。また、出演・展示はしないが運営に携わりたいという有志の方も実行委員として参加している。

5月から顔合わせをして月に1回開催しテーマや装飾、スタンプラリーのやり方や役割分担等について話し合い本番を迎える。委員長という言葉は使わず、役員の役割として世話人を3人決めている。限られた時間の中で担当職員は、分かりやすい資料を作り決めるべきことを整理するなど、実施に向けて尽力している。

○C委員

実行委員の人数はどうか。

○事業係長

実行委員会は約20～30人で30団体ほどである。

○B委員

ヤギフェス（柳沢）が自分たちのおまつりという思いが次第に強くなっていると感じる。今年には武蔵野大学の和太鼓「隼」の皆さんの演奏も素晴らしく、出だしもすごく盛り上がったシン・ヤギフェスだったと思う。

○C委員

小須田会長の当事者意識をどういうふうに醸成していくか、それは職員の先ほどの資料作りやまとめ方の部分も大きいと思うが、職員先行ではなく、職員は裏方に回りつつ、実行委員会が自分たちのフェスなんだという思いで運営されていることは、すごく大事ではないかと思う。

○A委員

身近な問題を考える講座（保育付き）みんなでトーク for ピース（芝久保）は、参加者を子育て世代に限定しない講座で、参加者の感想に、「ショッピングモールの一時預かりのように希薄かと思っていたら丁寧に大切にみていただき、ともに成長を喜んでくれて本当にありがたかった」とある。また、普段平和について語り合う機会がない中、50代60代70代の方たちと世代を超えて平和について語り合えたとあり、子育て世代と上の世代が保育付きだから交流できる価値ある事業だったと感じる。とても高く評価したいと思った。次に、地域づくりを考える講座「あなたの楽しいはやさしいまちにつながる～地域とのつながり方を考える～」（柳沢）の初参加の4人の方や、大学生から80代まで世代の幅が広い参加があるが、それぞれの世代でどういう興味目的で参加したのか。

○事業係長

20代の3人は社会教育実習生。30代40代では夫婦で参加された方や、中国から引っ越してきて地域で活動を始めたいという方、70代80代はすでに地域で活動していて講座に興味があるという方だった。漠然と地域づくりというテーマでは参加者が多く集まらなくなってきたと感じる。次回は例えば動画制作をきっかけに地域や公民館の魅力を考えるといったやり方もあるのではと検討を始めている。

○B委員

地域づくりを考える講座（柳沢）講師の皆さんは地域ですごく活躍されている面々なので、その活動についてお話を聞きながら、講座参加者が少しサポートするみたいな講座であつても面白かったかなと思った。実際の活動に入って動きながら一緒に考えていく講座も良いのではないか。また、どの保育付き講座にも感想として、親子の成長の場で大切であるとか、公民館の保育付き講座をもっと広く知ってもらえるように宣伝してもらいたいという声が上がっている。また、他世代の方も参加していて新鮮だったとか、地域の中でというテーマがきちんと参加者の声として出ているというところも含めて、保育付き講座の意味がまた新たに動き出しているのではないかなと感じた。参加人数が減りつつある保育付き講座だが、やはり意味は大き

く、内容と宣伝方法をこれからも工夫していただければと思う。

○A委員

子育て中の女性のための講座（保育付き）「健康をみなおす～食をとおして健康になろう・日常生活が楽になるカラダ～」(田無)で孫育て8人保育なしでの参加とあるが、孫を連れて保育付きで参加というイメージはあまりないという感じなのか。

○B委員

孫をみる自分の経験から、孫を預かっている人は、すでに保育園に子どもは預けていて、その送り迎えや親が仕事から帰ってくるまでの間、家で面倒みるということだと思う。離乳食や小さいお子さんに接するときの考え方も時代によって変わってきているので、きちんと時代に追いついていかないと孫育てできないと私も実感としてしているところ。そういう意味で子育て中の女性のための講座(田無)の孫育ての参加者は多かったのではないかなと思う。

○D委員

参考として、孫育てしている8人の年代がわかれば教えていただきたい。

○事業係長

それについては田無公民館分館長欠席のため次回に回答する。

(2)令和7・8年度公民館主催事業計画について(資料3)

○分館長(芝久保)

子育て中の人のための講座(保育付き)「ノーバディズ・パーフェクト～完ぺきな親なんていない!～」(芝久保)は、初回に受講者全員で講座のルールを決めるところから始める予定。その後どんなテーマで話し合うか決め、ファシリテーターが伴走しながらそれぞれの子育ての方法を学び、親としての自信をつけていくことを目指す。地域とのつながりが持ちにくく孤立した子育てに悩む人が安心安全な場で語り合い仲間づくりをしていく方向で進める。今回は女性だけでなく、男性も参加可能。他自治体でこのプログラムを男女で実施したところ、とても良い形で実施できたという確認ができ、今回は男性の参加も可能という形で進める。

○A委員

子育て中の人のための講座(芝久保)のチラシに男性も参加可能と載せた方がよい。平日午前の講座だが、男性も参加可能なことをアピールするならば、育休を取っている男性も遠慮なくというアピールをするとういかなと思う。

○E委員

子育て中の人のための講座(芝久保)の女性に限定せず男性もというところが私は新鮮で、そもそも限定しないのが、標準なんじゃないかなと思う。例えば、働く女性とか子育て中の女性ゆえの課題ということであれば女性のための講座ということだと思うが、テーマ的に全く限定する必要がないものでもあるし、元々すべての子育て中の講座みたいなものは、女性だけじゃないと話せないような内容を扱わない限りは、原則は男女に開かれるべきだと思ってずっと臨んでいたもので、少し意外だった。全般的にそういうことではないのか。

○B委員

ノーバディズ・パーフェクトは私も関わっていた時期がある。30、40年前にカナダ発祥の親支援プログラムの実践を日本に取り入れて、西東京市ではこの講座の講師を務めるNPO法人ワークス・コレクティブ「ちろりん村」のスタッフがその技術をきちんと積み重ねている。当時は、女性がほとんど抱えていた時代で、男性が入ることで、言いたいことも言えなかったり、自分を解放できなかつたりというのがあった。公民館の保育もそうだが、女性の方たちが心情を共有する場面を作るという目的があり、守られていないと安心して発言ができないという時代だったと思う。時代が変わって、私は男性も受け入れるこうした取り組みがされるのがとても新鮮に感じた。女性のみではなく、男性の参加もよいと思う。

○事業係長

その部分について、公民館はセンシティブに捉えており、子育て中の人のための講座と子育て中の女性のための講座をあえて分けている。子育て中の人のための講座は、男性も入れる講座としており、ご指摘の方向性で進めていきたい。一方で、時代が変わったといってもまだまだ遅れている部分もあり、その中で女性が女性たちの中で安心して話す場という、これまで公

民館が大切にしてきた保育付き講座にも必要性を感じている。その上で、事業名や対象については、これまで以上に明確に根拠を持って実施していくということにしている。

○E委員

私の質問の主旨と意図の補足で、例えば女性ならではのジェンダーや性差の問題であれば女性だけの講座ということがあっていいと思うが、子育ての参加度合いとか親としての成熟度というテーマの講座の場合、公民館のような公共的なところでは、女性ゆえの課題のものと明確に打ち出さないと問題なのではないかと思う。本当にこれは女性だけのクローズな場じゃないと話せないというテーマであるか、男性も参加していい内容であれば、逆に女性の視点で出なかったものを学べる講座という可能性もあると思うので、そこはかなり綿密に線を引いた方がいいんじゃないかなと思う。逆差別になりかねないという発想というか、それが保守的内容を作っていると見られかねないことでもあるような気がする。かなり切り分けて議論いただいているということなので安心した。

○F委員

子育て中の女性のための講座（田無）は、料理やバランスの良い食事をテーマにしている、それは育児休暇中であろうと男性が参加している方がいいし、区別する必要は全然ないように感じる。女性の体に関すること、例えば産後の体のお話などであれば分かるが、子どもを育てる、あるいは食事についてだったら、男性も参加していいと思う。ぜひその辺りの垣根をできるだけこれからは外していただきたい。

○A委員

孫育ても含め子育てについて、男女全てに関わるという把握で捉えることもできるが、前年度も女性限定にする必要があるのかと話をした時、やはり委員の中からまだまだ女性の中じゃないと話せない人がいるという話があった。一方で、女性の問題、ジェンダーの問題というテーマであっても、E委員のニュアンスも引き取れば、男性も一緒に議論する必要があるという意味もあるとも思っていて、すごく難しい部分でもある。

○事業係長

来年度は、男性特有の課題について考える講座を実施しようと思っている。例えば男性の育児参加が進まない原因や社会構造について学んで考える場には男性がいた方がいいと思うし、社会が求める男らしさというものに縛られて苦しんでいる男性の問題もあると思う。女性だけでないといけない講座と、男性が入る意味がある講座と、男性と女性が一緒に考えていく講座といった形で、やはり明確に目的を持った講座の企画運営をしていくべきかと思った。委員からのご指摘は、来年度の男性対象講座にも活かしていきたい。

○B委員

講座の持ち方を男性女性と分けていた時代から、本当に分けるべきなのか、本当に分けなければいけないのかという視点で講座をもう一度見直して、新たな講座の形に進んでいくということで期待したいと思う。

○B委員

子育て中の人のための講座（芝久保）の講座は、根底にある人権意識や子育てに対する考え方が分かる構成になっている。子育ての中で、自分の人格や人権をきちんと守られているか、子どもの人権をちゃんと守るってどういうことなの等、気づいていくプログラムだと思う。保育と講座の関係に目を向けると、7回～8回の保育の中で、子どもの人権や人格を大切に考えた保育とは何か？ということが保育員からも報告として出てきたらとても有意義だと思った。その意味で計画書の「保育員との関わりや年齢の違う子どもとの交流で成長する機会とし」という部分が気になった。保育員との関わり自体が目的というよりは、保育員の意識によって、子どもたちが他の子どもたちに気付いて、そこで成長していくという過程が継続保育の醍醐味であり、お母さんたちにも子どもの成長を感じてもらえる保育になると思う。講座で学んだことが保育室で実践されていることに気付くような報告が、講座と兼ね合ったらとても面白い。ぜひ保育員の皆さんに、お伝えいただけたらと思う。

(3)令和8年度西東京市公民館事業計画(案)について(資料4)

○事業係長

柳沢は、中高生対象講座とサークル公開講座（陶芸体験教室）が来年度再開となる。保育付き講座は長期、中期、短期の3つを行い、一年を通して保育に関する事業がある状態を作る予定。田無公民館の事業は概ね今年度から継続。ひばりが丘は、高齢者の課題を考える講座を復活させる。

○分館長（芝久保）

高齢社会の問題を考える講座は、ひばりが丘で実施するので芝久保では実施しないが、今年度この講座から派生した交流会は継続してサークル化に向けて支援していく。小さな展示会と講習会はロビーの活用も含めて工夫していきたい。体験できるような場を創出しながらサークルの活動が促進されるようなことを検討していきたい。

○分館長（谷戸）

夏休み子ども学習室・セミの羽化観察会は継続。防災講座は中高生が企画する小学生向けの講座という形ではなく、一般向けの災害で自分たちができることを考える講座とする。教養講座は、身近な法律を知ること自分たちができることを学ぶ講座。保育付き講座は、男性も含めた子育て中の人のための講座と、子育て中の女性のための講座を計画している。インクルーシブな社会をめざす講座は、創作ダンスで前回委員からも続けていただきたいという意見もあった。農業講座は、猛暑が予想されているので回数を減らす。利用者と共に作る講座は、地域の人たちと共にという趣旨で、無料で生演奏が楽しめる形で考えたい。

○分館長（保谷駅前）

7年度と事業は同様だが、防災講座や地域連携講座などは、市の北部に地域に住んでいる方に公民館の存在を知ってもらうため、会場を保谷駅以北に出向いて行う形で実施する予定。館としては音楽設備の整っている施設なため、みんなの軽音講座や趣味講座のバンド講座も引き続き重点的に取り組む。その成果についても、小中学校の体育館を使って多くの人に周知できないかなど検討している。

○事業係長

今の時点でのご質問やご意見があればお聞かせ願いたい。またメールや電話で後日いただいてもよい。来月の第10回定例会で承認いただきたい。

○E委員

令和8年度西東京市公民館事業計画(案)に書かれている概要だけでなく、例えば先ほどの谷戸公民館の利用者と共に作る講座もコンサートとはっきり書いてあれば、座学だけでなく視聴覚的的事业もありバリエーションがあると感じたり、この分野が少ないのではといった大局的なコメントがしやすいと思う。また、事業評価を見据えて、事業方針だけでなく、事業方針別の取組事業にも番号をつけてこの計画に表示しておけば、バランスよく計画されているか重点がどこに置かれているのかが分かり、集計してマッピングすることで把握しやすくなると思う。また、保育付き講座は重点が置かれていると思うが、保育付きという言葉が、保育がおまけのように感じるし、一時預かりのイメージで子どもが預けられるから申し込もうという受講者も少なくないのではと感じる。極論だが、親は来ない子どもの成長を目的とした子どものための教育講座もあっていいと思う。

○B委員

保育室ができた経緯についていうと、まず大人の学びが出だしにあり、そこに保育を付けるという流れだが、それを大人の都合で預けるということではなく、子どもたちの成長の場でもあるという、その両方が大人の学びであり、そこに公民館保育の意味があると思っている。民間の一時預かりに足りないのは、預けた親の学びや、子育てや暮らしへつながっていく考え方の部分。それらが公民館の保育にはずっとある。親は来ないで子どもだけと分けてしまうと、今まで培ってきた公民館の保育とはまた違うものになるかなと思う。

○E委員

保育付き講座と表現すると、自分が主役で子どもをそのために預ければいいという人も生まれ、本来的じゃない利用がされると思う。逆に保育が講座の目的で、このぐらいの年代の子にこういう成長を期待する講座ですっていうのを開いてもいいんじゃないかっていうのが私の問題提起で、それは公民館でやる必要がないかもしれない。

○B委員

急にそこを変えていくというのは難しいと思うが、保育員や実際に預けているお母さんたちはどうかなども含めて、これからの課題として聞いていくのも必要なと思う。

○A委員

子ども向け防災講座「中高生が企画する小学生向け防災講座」（谷戸）をやめる理由は何か。

○事業係長

担当者が3年で区切りと決めていたと聞いている。3回講座だが1回につき5回程度準備会を実施しており、かなりボリュームもある。やりきった感があるのかとも思う。

○A委員

とてもいい事業なので、3年で終わりといわず続けてほしい。

○事業係長

検討できると思うので、分館長から改めて担当者に検討できるか聞いてもらおうと思う。

○A委員

4年前のウクライナ侵略が始まった時、事業計画が出来上がっているが平和講座に限らずいろいろな講座で平和のことも考えていこうという提案があり、担当者も配慮してくれたと思うが今回はその辺りはどのようになっているのか。

○事業係長

年間事業計画を決めてあっても時事的なことをリアルタイムで考えていくことについては引き続きその方向でいきたい。平和については芝久保公民館の平和を考える講座を実施し、柳沢公民館の現代社会を考える講座では、刻々と変わる世界の中で今必要な学びを提供していく。保谷駅前公民館の社会問題講座や人権講座、多文化共生講座なども年間事業計画の段階ではあまり具体的に書かず、その時の時流に合わせたものにしていけたらと思う。

○B委員

まちなか先生の取組の報告は次回だと思うが、来年度の取組はいかがか。

○分館長（芝久保）

令和8年度も令和7年度と同じ内容、平和講座・郷土かるた講座・防災講座の3種類で現在校長会に希望校を聞いている。

○G委員

保谷駅前公民館から、学校の体育館を使ってみんなの軽音講座をできないか検討しているという話があった。学校で行うことによって、中高生やその親にもリーチできれば、親世代にも公民館がどういうことをやっているのか知ってもらえる機会になると思う。単純に出前講座としていろいろな場所でやっても、同じ世代しか来ず新しい層にリーチできないと思うので、そうした取組を続けることで、継続的な利用者の獲得だけでなく、世代間交流の拠点として公民館がどういう役割を持てるのかといった部分にもつながっていけばと思う。来年度の取組では、そういうことを意識してやっていただけたらと思う。

○H委員

明保中学校では例年、東小の育成会のお祭りなど本校の体育館を使っていただいている。最初のオープニングでは、本校の音楽部が演奏したり歌を歌ったりなどステージでの発表があり、そのあとはいろいろな遊びがあって、中学生がボランティアとして小学生と関わる活動もしている。小学生は喜び、見守っている保護者の皆さんもすごくありがたがっている。軽音講座での本校体育館の利用については前向きに考えている。学校経営方針の中にもそうした記載を入れている。この先、学校として施設を地域で活用していく視点で経営していかなければいけないというのは私自身も思っているので、こうした計画というのはすごく大賛成。ぜひ私も協力できればと思う。

○I委員

谷戸第二小学校も近くのお祭り関係があるときには、体育館や校庭を開放している。他区に比べたら少し開放する機会が少ないと思うので、できることがあればどんどんやっていきたい。「まちなか先生」でも戦争体験の授業をしていただいたが、やはり生きた学びをするためには、自分事にすることがすごく大事なことだと感じた。まさに自分たちが住んでいる場所の

戦争の話だとか、普段遊んでいる場所に昔、高射砲があっただとか、そういう具体的なことをたくさん教えていただき、子どもはすごく目がピカピカ光って輝いていた。本当に生きた学びになった。

3 報告事項

(1) 行政報告

- 2月7日(土)東京都公民館研究大会は参加者 160 名と大盛況のうちに無事に開催し終了した。参加者アンケートも大変良かったとの感想をいただいている。報告書も今後まとめたと思う。こちらの公民館運営審議委員の皆様にも多く参加いただき感謝している。
- 田無公民館の視聴覚室は令和8年4月から「集会室」と名称を改める。柳沢公民館のような常備された視聴覚機器がある部屋ではないため、同様と思って予約した団体から思っていた活動ができなかったという声が上がっていたことが理由である。

(2) 公民館だより編集室報告

- 市川事業係長より、3月1日号の紙面確認が、主だったこと、来年度4面発行を何月にするかの相談、4月1日号1面は講座報告3本になる予定など報告。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- C委員より、今月は東京都公民館研究大会への参加に変えているため報告なし。

○B委員

公民館研究大会に参加された方から一言ずつ感想をいただけますか。

○J委員

事務局の皆様、本当にお疲れ様でした。昨日柳沢公民館で振り返りの機会があり参加した。いろいろなテーマがあり、公民館のおかれている状況はいろいろ大変なところもある中で、西東京市の公民館は頑張っているなと思ったところ。シンポジウムの中でも話が出たが、にぎわい創出とか、まちづくりとか、地域づくりということが、いろいろなところでやられている。にぎわいの捉え方はいろいろあると思うが、その辺は非常に難しいなと思いつつ、今回その公民館研究大会なので、公民館という建物というか館のある意味というか、そういったところをもう少し再認識していけたらなということ思った。

○F委員

雪が降っている中、とても熱い公民館研究大会だった。公民館で学ぶことの意義、自己実現についてや、学ぶことによって自分が変わっていくことなど、そういうことを保証してくれる場所というか、いろいろな先生方が角度を変えて話してくださったんですが、うんうんとうなずき続けているくらい本当にいい大会だった。そして西東京市で学んでいるという嬉しさというか、そういうものを実感した会だった。

○K委員

雪が降っている中、本当に多くのお客様が参加していてとてもいい公民館研究大会だったと思う。千葉大学の長澤先生から公民館が有料化になるという話がインパクトがあった。そんなことがあるんだと。西東京市の公民館運営審議会は年に10回あり、公民館だよりがカラーで全戸配布されていることが、他ではないそうで、西東京市はすごく恵まれてるんだなというのをその場で思った。そんな話をすると観客の皆さんから、おー！と歓声上がる。本当に恵まれたところで我々は公民館活動をやってるんだなというのが一番感じたところ。

○C委員

本当にすごく参加者が多くて熱い大会だったと思う。私の中では基調講演の泉谷先生のお話が印象に残っている。泉谷先生の間人観の肝という図式があり、心と体はつながっていて、頭はそれらを抑え込もうとするけど、抑え込めなかったときに、ストライキや暴動が起きるとか、人間はちゃんと頭と心と体がつながってないといけないと、かなり哲学的なお話も多かったと思う。公民館の研究大会だが、人間としてどういうふう生きていったらいいかといったこととリンクしていて大変よかった。

○L委員

公運審委員になっていなかったら参加していなかったと思うが、参加してよかった。公民館と地域づくりというのは学びと活動の循環というお話や、行政による啓発的な講座は要注意というお話もあり、なるほどと思った。私自身いろいろと勉強になった。

○B委員

市長や教育長が冒頭に挨拶され、公民館講座から生まれたバンドが市内の公民館を演奏で巡っているところに出て歌っているという話から始まって、泉谷先生も含めて、皆さん、音楽に関わっているような話が、ちょこちょこ話に出て、この大会はずっと底流に音楽があるのかなと思いながら楽しく勉強した。最後の先生が、地域のいろいろなところをごちゃまぜにしてみましようよとおっしゃって面白いなと思ったが、そのごちゃまぜが上から来るごちゃまぜにはさせたくないなと思った。自分たち公民館を利用している市民だったり、利用者が自分たちでごちゃまぜに動こうよというふうにデザインできるといいんだろうなと感じた。雪も降ったが、とてもいい公民館研究大会だったと思う。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和7年度第2回利用者懇談会日程（資料5）

(2) その他

西東京市公民館事業評価について

○事業係長

これまでの評価表を評価しやすいように変えていきたいと考えている。5月6月7月で皆さんと話し合っただけで新しい評価表ができれば、10月くらいまでに評価ができるのではと思う。皆さんからメールでもよいのでご意見をいただきたい。

○E委員

主催事業だけの評価に変えてしまうと、施設管理や施設運営、広報のことについてなどが評価の対象から外れてしまう。今までのものも使いながらよりよい形にしていくのがよいのではないか。

○B委員

評価をもっと分かりやすくとか、評価しやすくというのは賛成。毎回目を通す個別の事業計画書と事業報告書の内容はみんな分かっている前提で、ポイントを押さえ大事なところを議論する場になっていくのが理想かなと思う。

○A委員

社会教育について体系的に評価できると思わない方がいいと思う。この定例会の場でいろいろな意見をやり取りして各事業について議論しているわけですから、私たちはそれらを踏まえて、公民館が目標にしているところに近づいているか、達成しているか、後退しているかということをお話し合うのがいいと思う。形やフォーマットがあってもなかなかできる評価ではないので、定例会での議論を評価としてどのように組み立てられるかということじゃないかと思う。6館あるので、全体でうまく回っているかどうかなどについても、みんなで知恵を出してやっていくことが大切だと思う。

○E委員

評価の視点として、誰に向けて出すのかということはあると思う。あまり項目が多くて細かくなりすぎると、その評価のための評価になってしまうので、そこは必要最低限の本当に必要な項目だけ漏らさずするのがいいと思う。評価をするための議論そのものが有意義だという話もその通りだと思う。ただそれらがちゃんと伝わる中身で出さないと、周りも評価しないし、評価を見て面白そうだから公民館に行ってみようねというふうにもならない。それでは評価を時間をかけてやる意味があまりなくなってしまう。もっと客観的なデータや数字ももちろん必要ですが、評価表にはあんな生々しい議論や、公民館まつりに学生が参加してこうだったといった事例が、浮かび上がるようなものであってもいいのではないか。そういう生き生きとした評価にもう少しなれるような方法があるといいなと思う。先生がおっしゃる通り、ガチガチのフォーマットでシステムチックにやるというよりは、あるものをうまく使ったり、こういう議論を取り入れられる仕組みが考えられるといいと思う。

○事業係長

おっしゃる通り、定例会や評価で出てくる話は公民館の魅力がいっぱい詰まっている時間だと思う。外向けにそれを読んだだけで、公民館が興味深いだと思ってもらえるものになったらいいのではないかと。次回の定例会で時間を設けて少しずつ具体的にしていきたいと思う。

(3) 令和7年度第10回定例会の開催について

日時：令和8年3月18日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室